

## ZANDEN Model 120 の展開(78) ーベーターヴェンを聴き直す(13)ー

### 1. 始めに

前報(77)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンのトリプルコンチェルトを選定しました。

ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲 ハ長調 作品 56

ドイツグラモフォン 4836-399

ゲザ・アンダ (ピアノ)、ヴォルフガング・シュナイダーハン (ヴァイオリン)、

ピエール・フルニエ (チェロ)

フェレンツ・フリッチャイ指揮ベルリン放送交響楽団

Hi・Q Record HIQLP006

リヒテル (ピアノ)、オイストラッフ (ヴァイオリン)、

ロストロポーヴィッチ (チェロ)

カラヤン指揮ベルリンフィル

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(3\)](#)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

ドイツグラモフォン 4836-399 盤は、TELDEC,逆相、第 4 時定数 Mid で聴きます。[アナログ再構成後の活用\(3\)](#)でも報告しましたように、いかにも協奏曲といった感じで、フリッチャイは 3 人のソリストを支え、ソリスト達も相互に協調しています。そして 3 人のソリストが、オペラの 3 重唱のように伸び伸びと歌っています。

Hi・Q Record HIQLP006 盤は、ZANDEN のリストにはありませんので、RIAA の正相から聴き始めましたところ音が散漫でしたので、逆相にしてみました。そして、盤のクレジットを見ると、オリジナルは 1969 年録音、1970 年 EMI の発売で、2010 年に Hi・Q Record にライセンスされたと書いてありますので、EMI の逆相で聴いて行きましたが、こちらの方のバランスがいいようです。なお、EMI オリジナルは、第 4 時定数は Low が良いと ZANDEN のリストに記載されていますので、第 4 時定数を Low にしてみました。響きがつきすぎるように感じましたので High にもどしました。

この盤は、[アナログ再構成後の活用\(3\)](#)でも報告しましたように、協奏曲というよりは、3 人の大家のソリストにカラヤンが加わった独演の集合のようで、それぞれの個性が表に現れています。また、協奏曲と言いながらも、バックのカラヤン指揮ベルリンフィルも主張が強くでています。

### 4. まとめ

前回の試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上